

# 宮崎大学十一月の生活報告書

四年二組 周 力信

前言：

こういう色々自由に書ける報告書は、多ければ多いほど嬉しいものです。でもなにを書くか毎回大変悩んでいます。実際に書いている時間より書きながら悩んでいる時間ものほうが多かったですりして…。

本文：

季節が巡り、ミカンが一番美味しい時期がやってきましたが、僕にとって少し渋い季節である。それは今月の僕を変えてしまいうぐらいの出来ことであった。

僕はバイトをし始めた。面接もなしで派遣会社で初仕事ももらった。日本、この国での初仕事なのに、結果はうまくいかず、散々叱られた。僕の仕事は宮崎観光ホテルというホテルでの会場やレストランのウイーターさんである、仕事をする前に派遣で少し研修をしたが、やはり未経験の僕には負担があまりにも大きいと言いたいところだが、実際のところはそうでもないようだ、僕が初仕事をした場所は人呼んで「最悪の働き場」だ、僕は気づいたんだ「あそこは優しくない」ということを、なぜ

かというとその場所以外に他の会場も働いたが、全然違うだからだ。もちろん、全面的に否定ではないけれども、堪忍袋が小さい人はあそこに行かないほうがいいと思う。

今月の下旬にバイトを辞めた。しかし、バイトで改めて知ったや初めて知ったことは書ききれないほどあるが、ここが一番感慨深いことを話す、それは頭の中に入った単語が足りないことだ、一般的な教科書に記していない単語が沢山使っており、更に食器と料理の名前や方言がどんどん出ており、それら日本人が普段使っている名詞を覚えるのは今の僕にとって最大の課題である。



チューターと一緒に猫カフェ。



派遣で撮った写真です。

作成日 2017/12/02